

## 第4 地域創生



## 第4 地域創生

地域創生部は、市町村と連携して過疎地域や特色ある地域づくりを支援するとともに、「ぐんま暮らし」のブランド化による移住促進や、県外に在住しながらも継続的に県内地域との関わりを持つ関係人口の創出を図るための各種施策を行った。また、芸術文化・スポーツの振興により、魅力や活力のある地域づくりを推進するための各種施策を行った。

令和3年度は、新・総合計画（基本計画）のビジョン実現に向けて、次の重点施策に積極的に取り組んだ。

### 【令和3年度の重点施策及び主な取組】

#### 1 県民総活躍社会の実現

##### (1) 多文化共生・共創

- ・外国人県民のコミュニケーション支援・外国人県民が安心して暮らせる環境を創るための生活支援
- ・ぐんまを創る「仲間」である外国人県民とともに新たな価値を創造していくことを推進

##### (2) 移住者や関係人口を構成する人々の活躍

- ・ぐんま暮らしのブランド化による移住促進・関係人口創出

#### 2 官民共創コミュニティの育成

##### (1) 地域課題解決

- ・住民主体の地域活動（地域運営組織、地域づくり団体等）の促進
- ・地域おこし協力隊の起業・継業や特定地域づくり事業協同組合の設立を支援

##### (2) スポーツによる地域創生

- ・県内のプロスポーツチームの魅力発信や活動サポート、プロスポーツを核としたスポーツの成長産業化
- ・アウトドアスポーツを活用した交流人口増大
- ・本県スポーツ選手の活躍により、県民の感動・誇りを醸成

##### (3) 文化による地域創生

- ・新しい文化価値の創造
- ・アートを活用した地域振興
- ・歴史文化遺産の保存・活用

## 1 地域創生費

### (1) 総務調整費 決算額 7,728 千円

部内予算の適正、効率的な執行を図るため、部内共通経費や年度途中で機動的な対応が必要となった経費等に支出した。

区 分	内 容	金 額
主管課運営費	部内共通経費等	849 千円
部局調整費	感染防止対策物品購入等	6,879

### (2) 社会参加費 決算額 4 千円

職員が地域社会に積極的に参加することにより、県民の声を聞いて県政に反映し、また、県政の方針や事業等について県民の理解と協力を求めるため、各種団体との会合に伴う会費等の支出を行った（執行所属数：1課1所）。

### (3) 文化スポーツ施設等特別維持整備費 決算額 37,694 千円

地域創生部所管の県有施設で緊急に必要となる補修工事等に機動的、弾力的に対応した。

修繕費	役務費	委託料	工事費	備品費	合 計
12,856 千円	32 千円	12,316 千円	10,147 千円	2,343 千円	37,694 千円

### (4) 地域政策推進 決算額 3,481 千円

#### ① 地域づくりネットワーク推進

県内約 170 の地域づくり団体と県・市町村で構成する「群馬県地域づくり協議会」の運営を通じて、研修会の開催、優良団体の表彰、情報誌の発行等を行い、構成団体の活性化とネットワーク化を図った。

#### ② 両毛広域都市圏総合整備推進

東毛地域と隣接する栃木県足利市、佐野市を含めた広域的な都市圏について、両県及び関係市町で構成する両毛広域都市圏総合整備推進協議会の運営を通じて、公共施設相互利用等による地域交流を推進し、圏域の一体感の醸成に努めた。

#### ③ 地方創生関係交付金

地方創生関係の交付金について、市町村の交付金申請を伴走支援した。

区 分	実 績		
地方創生推進交付金（市町村分）	16 市町村	37 事業	243,994 千円
地方創生拠点整備交付金（市町村分）	3	3	417,128

### (5) 地域調整費

振興局等において地域の政策課題に機動的かつ柔軟に対応するため、地域調整費を活用し、地域の振興及び活性化を図った。

#### ① 地域振興調整費（地域振興事業） 決算額 42,379 千円

地域の振興及び活性化、地域の課題解決、将来に向けた芽出しのための事業に機動

的、弾力的に対応したほか、県民が県政に参画するための各種事業を実施した。

・主な活用事例

事業名	事業概要	事業費
生活困窮家庭等の小中学生への学習支援 (中部振興局)	コロナ禍による長期休校のため、学習支援を必要とする児童・生徒の学力の底上げを図った。	496千円
伊香保温泉広域周遊促進に向けたサイクリングPR動画の作成 (北群馬渋川振興局)	自転車で楽しむ広域周遊促進のため、マウンテンバイク型の電動アシスト付き自転車(E-BIKE)を使用したサイクリングツアーの動画を作成し、SNS等によりPRした。	475
炭焼体験とそば打ち体験 (高崎安中振興局)	里山・竹林の現状、竹林整備の必要性、伐採した竹の活用方法等の理解促進を図るイベントを行った。	19
全国ダムカード展inふじおか (多野藤岡振興局)	全国的に知名度があるダムカードの企画展を開催し、ダムの役割の理解を深めてもらうことで、防災意識の向上と鬼石地域の活性化を図った。	300
上信電鉄沿線を観光圏として盛り上げるためのポスター及びパンフレット作成 (甘楽富岡振興局)	県内外の人に上信電鉄沿線地域の魅力を周知するため、各駅の魅力的なコンテンツのポスター、パンフレットを作成した。	1,000
吾妻地域におけるデジタル技術を用いた観光周遊イベント (吾妻振興局)	消費が落ち込んだ地域を盛り上げるため、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮したデジタルスタンプラリーを実施した。	1,994
YouTubeチャンネル向け観光動画撮影 (利根沼田振興局)	人気YouTubeチャンネルにて、都内から車で行ける日帰り女子旅を収録、公開することで地域の魅力を発信した。	236
つなぐ・まちなかフェスinたてばやし (東部振興局)	多様な民間主体による公共施設・空間、道路空間、民間空地を利活用した官民連携のトライアルイベントを実施した。	935
子どもが作るまちミニきりゅう (桐生みどり振興局)	仮想都市での就業体験を実施し、納税や消費等、社会活動の疑似体験を通じて、郷土愛の醸成を図った。	500

② 地域振興調整費（住民センター等整備事業） 決算額 500千円

町内会、自治会活動の拠点である住民センター等の整備に対して支援を行った。

名 称	事 業 区 分	事 業 費
津久田第二集会所 (北群馬渋川振興局)	改修(長寿命化)	500千円

③ 地域公共事業調整費 決算額 302,337千円

複数の分野に関わる公共事業を実施し、地域課題の解決を図った。

・主な活用事例

事 業 名	事 業 概 要	事 業 費
県立敷島公園・正田醤油 スタジアム・バックスタンド 観客ベンチ更新工事 (中部振興局)	現在の木製ベンチが老朽化で使用に 支障があるため、撤去し耐久性の高い 合成木製ベンチに更新した。	8,000千円
通 学 路 安 全 対 策 (北群馬渋川振興局)	県管理道路の通学路区間における児童 及び道路利用者の安全確保のため、 路面標示等を整備した。	1,400
バ ス 停 の 安 全 対 策 (高崎安中振興局)	県管理道路において、小学生が通学に 使用するバス停の待合所スペースの 安全確保のため、地元から寄付された 用地を活用し、拡張工事を実施。 併せて登記のため測量を実施した。	5,050
桜山森林公園施設安全対策 (多野藤岡振興局)	展望台周辺の整備工事により観光 資源としての魅力を高めたとともに、 景観及び歩行に支障があった木を 伐採・抜根し転倒・転落防止の安全 対策を行った。	2,000
河 川 護 岸 補 修 (甘楽富岡振興局)	高田川親水公園に隣接する木柵護岸が 腐食し、景観も損ねていたため、 防災対策と良好な景観形成を目的と して護岸改修工事を行った。	8,517
は な も も 街 道 整 備 (吾妻振興局)	日本ロマンチック街道である県道に おいて、土砂流出の防止と景観改善 による地域のイメージアップのため 土留め柵を更新した。	8,162
流 雪 溝 補 修 (利根沼田振興局)	路面排水を速やかに処理し、車両通行 による水跳ねや再凍結による事故を防 止するため、湯桧曾温泉街の流雪溝の 補修工事を実施した。	10,032

事業名	事業概要	事業費
舗装補修 (東部振興局)	多数の工業団地を有する太田市の産業基盤となる県管理道路の路面損傷が著しいため、舗装状態の悪い区間の舗装補修を行った。	10,000千円
下水道デザインマンホール蓋の交換 (桐生みどり振興局)	都市計画道路幸橋線の重要伝統的建造物群保存地区に隣接した区間の景観向上のため、桐生市と協調してデザインマンホール蓋への交換を行った。	1,925

(6) 過疎地域自立促進対策

決算額

5,532千円

① 県過疎地域持続的発展方針の策定等

過疎地域の持続的発展に向けた取組を推進するため、県過疎地域持続的発展方針を策定するとともに、同方針に基づき市町村が取り組む市町村過疎地域持続的発展計画の策定を支援した。

② 過疎地域いきいき集落づくり支援

過疎集落の住民が主体となって実施する集落の維持・活性化への取組を支援した。

区分	内容	事業費
過疎地域いきいき集落づくり支援事業補助	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテルの里及び周辺地域整備を通じた地域住民の交流</li> <li>・俳句を活用した地域住民の交流</li> <li>・御用聞きの地域文化を活かした出前・配達マップの作成</li> <li>・「花」を用いた商品開発による産業創出</li> </ul> <p style="text-align: right;">など計8件</p>	千円 3,583

③ 過疎地域オンライン体感

過疎地域における地域課題の解決や関係人口の創出につなげるため、オンライン会議ツールを活用して地域の魅力や取組を情報提供した。

市町村	実施日	内容	参加者数
上野村	令和3年11月13日	森林セラピー、シイタケ料理体験等	15人
下仁田町	令和3年12月4日	下仁田ネギ収穫体験、移住者対談等	14
みどり市	令和4年1月10日	小正月文化体験(繭玉づくり、削り花)等	14
片品村	令和4年3月6日	雪中リンゴ収穫体験、座談会等	15

(7) 山村振興対策

決算額

657千円

過疎・山村地域の振興及び活性化を図るため、県・市町村間で共通認識を醸成するとともに、各市町村における今後の施策や事業への反映を目的に、市町村担当者向け説明会を動画で限定配信した。

開催期日	内容	参加者
令和4年3月18日	国、県の制度説明や情報提供、過疎・山村市町村の取組事例紹介を行った。	市町村過疎・山村振興担当課、県行政県税事務所

(8) 地域おこし協力隊の活動・定住支援

決算額

1,810千円

市町村の制度導入や隊員の活動・定住を支援するため、「地域おこし協力隊情報交換会」や「スキルアップセミナー」等を開催したほか、隊員が自ら必要なスキルを身につけるために行う研修活動を支援する「アドバイザー派遣」を実施した。また、地域おこし協力隊ポータルサイト「ツナグンマ」により、隊員の募集情報や活動情報等を発信した。

・令和3年度地域おこし協力隊導入実績（令和4年3月31日時点）

区分	実績
導入市町村	20市町村（前橋市、桐生市、沼田市、渋川市、藤岡市、安中市、みどり市、上野村、下仁田町、南牧村、甘楽町、中之条町、長野原町、嬭恋村、高山村、東吾妻町、片品村、川場村、昭和村、みなかみ町）
隊員数	123人

・地域おこし協力隊活動・定住支援開催実績

区分	開催期日	開催場所	参加者数
地域おこし協力隊情報交換会	令和3年6月23日	県庁	隊員・OBOG33人、市町村職員14人、県職員16人 計63人
地域おこし協力隊スキルアップ研修会	令和3年11月25日	県庁	隊員・OBOG22人、市町村職員10人、県職員10人、その他1人 計43人
地域おこし協力隊交流研修会	令和4年1月27日～28日	群馬県市町村会館 前橋市内	隊員・OBOG32人、隊員インターン生1人、市町村職員7人、県職員12人 計52人
アドバイザー派遣	令和3年7月6日～令和4年3月14日 計3回	藤岡市、みどり市、中之条町	隊員ほか延べ8人



区 分	開催期日	開催場所	参加者数
オンライン メンター	令和4年3月1日 ～10日 計5回	みどり市、川場村、 オンライン	隊員8人、 隊員OBOG5人 計13人

(9) 土地利用対策

決算額 27,363 千円

① 土地利用基本計画等の管理運営

県土の適切かつ合理的な利用を確保するために、国土利用計画法第9条の規定による「群馬県土地利用基本計画」に基づき、土地利用の総合調整等を行った。

令和3年度は、13件の「計画図」の変更を行った。

② 届出・勧告制度の運用

県内における一定規模以上の土地取引について、国土利用計画法第23条の規定に基づいて届出を受け、利用目的を審査し、適切な土地利用の推進を図った。

<届出処理状況> 令和3年（1月1日～12月31日までの集計）

区 分	受 理 件 数	処 理 件 数				計
		勧 告	助 言	不 勧 告	取 下 げ	
届 出	509 件		11 件	498 件		509 件

③ 地価調査

国土利用計画法施行令第9条の規定に基づき、7月1日を基準日とする基準地の鑑定評価を公益社団法人群馬県不動産鑑定士協会に委託して実施し、宅地367地点及び林地6地点の標準価格を公表し、適正な地価情報の提供に努めた。

④ 大規模土地開発事業対策

「群馬県大規模土地開発事業の規制等に関する条例」に基づき5ha以上の民間大規模土地開発事業に対して、必要な指導を行い、県土の保全と秩序ある開発に努めた。

(10) 水資源対策

決算額 8,562 千円

① 水資源の総合調整

国土交通省が定める水資源開発基本計画（フルプラン）の変更について、本県の水需用を把握するなど協力を行った。

② 水資源の確保対策

水資源を将来にわたり安定的に確保するため、水資源開発施設の利用調整に努めるとともに、施設の管理費を負担した。

③ 健全な水循環の啓発

利根川上流の本県と下流の東京都とで行う利根川水系上下流交流事業では、東京都と共同して水の大切さ及びダム役割を啓発するとともに、水源地域の情報発信を行った。

## (11) 発電施設周辺整備

決算額

252,623 千円

発電施設周辺地域住民の福祉の向上等を図るため、電源立地地域対策交付金交付規則に基づき、対象市町村（17市町村）の公共施設運営・整備等に対し交付金を交付した。

区 分	内 容	事業数	交 付 金
道 路 関 連	舗装維持修繕等	11 件	48,126 千円
福 祉 関 連	保育所等運営	10	162,207
水 道 関 連	配水管布設替え	1	4,400
教 育 文 化	図書館施設整備	1	30,267
環 境 衛 生	融雪剤散布機整備	1	650
環 境 維 持	樹木伐採	1	935
地 域 資 源 利 用	移住・定住対策	1	2,788
ス ポ ー ツ 等	運動公園内噴水取水口補修工事	1	2,000
計		27	251,373

## 2 ぐんま暮らし・外国人活躍推進費

## (1) ぐんま暮らしブランド化推進

決算額

46,745 千円

東京都千代田区に開設している「ぐんま暮らし支援センター」で専任相談員が移住・就職の相談に応じるとともに、市町村と連携したオンライン移住相談会やオンライン移住セミナーの開催、各種動画の制作を実施した。

また、移住希望者と地域をつなげる移住コーディネーターのほか、移住の現場できめ細かな支援を行う人材を育成するため、「地域の顔育成研修」等の実施により、移住の促進に取り組んだ。

## ・移住相談及び移住実績

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度
相 談 件 数	1,901 件	1,222 件	3,123 件
移 住 者 数	64 組 90 人	44 組 85 人	34 組 53 人

(注) 相談件数は、ぐんま暮らし支援センター、移住相談会、県庁、ぐんまちゃん家、群馬県東京事務所で受けた相談の合計数。移住者数は、移住相談を経て本県へ移住した人数（本人からの報告等で把握できたものに限る。）

## ・オンライン移住相談会開催実績

区 分	参加団体	延べ相談件数
第1回オールぐんまオンライン移住相談ウィーク	31市町村、 8県・関係団体	14 件
第2回オールぐんまオンライン移住相談ウィーク	35市町村、 6県・関係団体	15
オンライン移住相談 D A Y S ～ 農 業 ～	8市町村 2県・関係団体	11

・オンライン移住セミナー開催実績

区 分	主なテーマ	実施回数	延べ参加者数
T U R N S 連 携 オンライン移住セミナー	自然、テレワーク、ク リエイター、リノベー ション	4回	312人
群馬と関わる時間	移住コーディネータ ー、お土産、地酒	3	212
カ タ テ マ グ ン マ T A L K I N G	こけし、高崎だるま、 古墳、地域おこし協力 隊、子育て、古民家	6	367

・出張移住相談開催実績

場 所	実施回数	延べ相談件数
道の駅しもにた	3回	72件
道の駅こもち	1	32
ららん藤岡	1	46
ぐんまちゃん家	8	162

・動画制作実績

区 分	主 な 内 容	本数
移住者等密着動画	県内5市町村における夏の暮らし密着動画	5本

・地域の顔育成研修開催実績

区 分	会場	参加者数	主 な 内 容
オンラインセミナー 開催支援研修	オンライン	85人	企画の作り方、 プロモーション方法
地域における移住支援者の 養成研修	オンライン	62	移住コーディネーターの 役割・設置の効果

(2) ぐんまでテレワーク推進プロジェクト

決算額

4,762千円

都心から100kmという恵まれた立地、豊かな自然や温泉、全国有数の農畜産物、自然災害が比較的少ないなど、本県の強みや魅力を活かし、首都圏の移住希望者や企業をターゲットとして「転職なき」移住促進に取り組んだ。

① テレワークサイト

群馬県移住ポータルサイト「ぐんまな日々」内に、県内のテレワークサイトを新設した。

主な掲載内容	閲覧回数
県内テレワーク施設、ワーケーションモデルコース、施設利用者の声、 県内テレワーク施設マップ など	13,882回

② ワークेशनモニターツアー

県内3つのエリアでワークेशनモニターツアーを実施した。

エリア	日数	参加人数	テーマ・参加者
利根沼田	2泊3日	3人	自然の中で森と自分と向き合いたい会社員
県 央	1泊2日	2	クリエイティブに働きたいフリーランス
西 部	1泊2日	1	まちづくりに触れたいフリーランス

③ デジタルパンフレット

本県におけるテレワーク環境の魅力等を伝えるため、デジタルパンフレットを作成し、テレワークサイトで公開するとともに、パンフレット6,000部を都内移住相談窓口等で配布した。

(3)群馬県移住支援金

決算額 49,650千円

東京一極集中の是正と地方の担い手不足解消のため、東京23区の在住者・在勤者が移住して就業・起業する場合、また、令和3年度から新たにテレワーク移住や関係人口からの移住についても、引越等に係る費用を最大100万円支給する事業を市町村と連携して実施した。

区 分	市町村	支給件数	支 給 金 額
就 職	4市町村	4件	3,200千円（うち県補助 2,400千円）
起 業	5	6	4,800（うち県補助 3,600）
テレワーク	13	52	43,600（うち県補助 32,700）
関 係 人 口	3	17	14,600（うち県補助 10,950）
計		79	66,200（うち県補助 49,650）

(4)外国人活躍推進

決算額 3,807千円

労働力不足が深刻化し、外国人材獲得の国際競争が増す中、本県に外国人材を呼び込むため、多文化共創を实践するロールモデルとしてふさわしい事業者を認証する「群馬県多文化共創カンパニー認証制度」を創設した。また、企業による外国人受入れに対する支援や県内外国人留学生・ALT（外国語指導助手）が卒業・任期終了後も引き続き本県へ就職・定着するよう、合同企業説明会等を実施した。

区 分	事業説明	実 績
群馬県多文化共創カンパニー認証制度	多文化共創を实践するロールモデルとしてふさわしい事業者を認証し、その取組について国内外へ情報を発信	申 請 32件 認証事業者 5社 情報発信 30本
グローバルキャリアフェア in GUNMA	日本での就職に関心のある外国人留学生等と県内企業のマッチングの場として合同企業説明会を実施	参 加 者 65人 参 加 企 業 11社
地域外国人材受入れ・定着モデル事業	モデル地域として厚生労働省及び群馬労働局と連携し、外国人材の職場や地域への定着を促進するため、特定技能人材の獲得を支援	参 加 企 業 18社 内 定 者 45人

区 分	事業説明	実 績
外国人材受入れ相談会	外国人材の雇用を検討している事業者を対象に専門家（行政書士）による相談会の開催	実 施 9回 参加企業 25社

(5) 多文化共生支援

決算額

24,827 千円

外国人県民は、地域経済及び地域の活力をともに創る「仲間」であるとの考えに基づいた「多文化共生・共創『群馬モデル』」及び「群馬県多文化共生推進指針」を踏まえ、市町村や関係機関と連携して課題に対応し、多文化共生・共創社会の実現による豊かな地域づくりに取り組んだ。

① 外国人が安心して暮らせるための幅広いサポートの提供

ア 医療通訳ボランティアの養成・派遣

外国人県民が医療機関等で受診する際に必要とする通訳（ボランティア）を養成し、協定医療機関等からの要請により派遣した。

区 分	実 績
養成講座参加者（うち登録者）	17人（7人）
医療通訳ボランティア登録者	15言語 延べ97人
医療通訳ボランティアの派遣	198件

イ 災害時外国人支援

災害時に外国人県民に対して正確な情報提供を行うための「災害時通訳ボランティア」の養成及び外国人県民を対象とした「防災訓練（避難所体験等）」を市町村と連携して実施した。

区 分	参加者数
災害時通訳ボランティア養成講座	通訳ボランティア 19人
外国人住民のための防災訓練（前橋市）	通訳ボランティア 17 外国人等 20

ウ ぐんま外国人総合相談ワンストップセンター運営

生活者としての外国人県民が、生活全般に関する適切な情報に速やかに到達できるよう、多言語で情報提供を行い、生活全般に関する相談のほか、法律相談にも応じる窓口を運営した。

対 応 言 語	相談件数
英語、ポルトガル語、ベトナム語、中国語、スペイン語	1,915件

エ 地域日本語教育体制整備

外国人県民が日本語を学習できる環境を充実させるため、群馬県における日本語教育の総合的な体制づくりを実施した。

区 分	実 績
総合調整会議	開 催 数 3回
日本語教育ボランティア養成講座	開 催 地 3か所 (渋川市・富岡市・玉村町)

区 分	実 績
外国人日本語教育ボランティア養成講座	開 催 地 1 か所 (伊勢崎市)
地域日本語教室ミーティング	開 催 数 3 回 (伊勢崎市・大泉町・オンライン)
日本語指導者スキルアップ研修	開 催 数 2 回
日本語教育実施機関団体等への補助	補 助 団 体 数 4 団 体 ( 県 補 助 479 千 円 ) (前橋市・伊勢崎市国際交流協会・安中市 国際交流協会・大泉町)

② 多様性を活かし、外国人が活躍できる環境づくり

ア 群馬県多文化共生・共創推進基本計画の策定

日本人・外国人県民が手を携え、多文化共生・共創社会の実現に向け、総合的に取り組むため、群馬県多文化共生・共創推進基本計画を策定した。

イ 多文化共生推進協議会への参画・連携

外国人住民が多い7県1市（群馬県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、名古屋市）で構成する「多文化共生推進協議会」に参画し、関係省庁への政策提言を実施した。

③ 多様性を尊重し、日本人と外国人がともに支え合うための意識の醸成

ア 多文化共生推進士の活用「外国人活躍推進キャラバン」

群馬大学が養成し県が認定した「多文化共生推進士」と連携し、地域課題の掘り起こしを行うとともに、課題解決に向けた体制づくりを進めた。併せて、多文化共生に係る県民の意識啓発のためのシンポジウムをオンラインで開催した。

テ ー マ	参加者数
「外国人との新たな共生・共創社会の明日を築く」	85 人

イ 多文化共生・共創推進月間

県民全体で多文化共生・共創社会実現への取組を進めるため、広く県民に興味を持ってもらえる、メッセージ性のある啓発動画等を作成するとともに、推進月間である10月に県庁舎デジタルサイネージや群馬県動画チャンネル「tsulunos（ツルノス）」を活用し、集中的に情報発信した。

### 3 文化振興費

(1)文化づくり推進

決算額 26,581 千円

- ① 多様な文化芸術活動や地域の伝統文化継承活動等を推進するために設置している群馬県文化振興基金を活用し、個性豊かな地域づくりにつながる県民の自主的・主体的な文化活動を支援した。

区 分	事 業 内 容	事業費
文 化 づ くり 支 援	・「群馬の文化」の形成につながる、地域での多様で創造性豊かな文化活動（6件）に対して支援	千円 1,906

区 分	事 業 内 容	事業費
伝 統 文 化 継 承	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域に伝わる伝統芸能や祭り、行事等を継承する活動（24件）を支援</li> <li>・継承のための講習会等の開催や活動団体間の連携推進を図るデータベースを整備</li> </ul>	千円 4,057

- ② 群馬県の文化的風土の象徴である「上毛かるた」を活用し、県民の郷土愛や群馬の歴史や文化に対する誇りを育むため、上毛かるた及び関連書籍の発行・販売を行った。

区 分	事 業 内 容	事業費
上 毛 か る た 活 用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上毛かるた発行 12,000部、販売 8,276部</li> <li>・ガイドマップ『『上毛かるた』ゆかりの地 文化めぐり』、「上毛かるた」で見つける群馬のすがた、英語版上毛かるたの販売の継続</li> <li>・上毛かるたの利用許諾 97件</li> </ul>	千円 6,953

(2) 埴輪王国ぐんまの推進

決算額

77,774千円

本県出土の埴輪が質・量ともに日本一であるという点に着目し、「埴輪王国ぐんま」の魅力を発信・定着させ、観光・地域振興や本県のイメージアップを図るため、周知事業を行った。

区 分	事 業 内 容	事業費
埴 輪、古 墳 の 価 値 や 魅 力 の 発 信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本県の歴史文化遺産の価値を再認識するとともに、イメージアップを図るため、埴輪や古墳などの魅力を紹介する動画を公開(動画本数2本、再生回数1592回) ※令和4年3月31日時点</li> </ul>	千円 288
東 国 文 化 副 読 本 の 活 用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学1年生向けの「東国文化副読本」をデジタルデータ化するとともに、自由研究の募集等により学校現場や家庭における副読本の活用を推進</li> </ul>	991
群 馬 県 立 歴 史 博 物 館 イ ノ ベ ー シ ョ ン 文 化 観 光 拠 点 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化観光推進法に基づき、令和2年8月に国が計画認定</li> <li>・計画に基づき、県立歴史博物館を拠点に、埴輪を世界に通用する文化観光コンテンツとして活用し、VRなどのデジタル技術を活用した展示の充実などを実施</li> </ul>	72,816
「 世 界 の 記 憶 」 上 野 三 碑 周 知	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度にユネスコ「世界の記憶」に登録された上野三碑の価値や魅力を県内外に発信するため、上野三碑普及推進会議を通じて、普及啓発事業を実施</li> </ul>	500

(3)文化施設整備推進 決算額 31,842千円

経年劣化に伴う補修・修繕が必要となった文化振興課所管の施設・機器等について、優先度に応じて計画的に修繕を行った。

(4)県立文化施設管理 決算額 162,908千円

文化振興課所管の一部県立文化施設について、県民が安全かつ良好に使用できるよう指定管理者による管理運営を行った。

区 分	指定管理者	事業費用協定額	利用件数	利用者数
群馬県民会館 (ベイシア文化ホール)	群馬県民会館 管理共同事業体	千円/年 141,267	件 1,387	人 135,568
群馬県立自然史 博物館附帯ホール (かぶら文化ホール)	富 岡 市	21,259	79	15,799

(5)文化団体等育成 決算額 21,099千円

- ① 優れた文化芸術活動を行うアマチュア文化団体を学校等へ派遣し、子ども向けの講演やワークショップ等を開催した。

区 分	事 業 内 容	事業費
は じ め て の 文 化 体 験	派遣団体：伊勢崎マジシャンクラブ等8団体 派遣先：後閑あさひ幼稚園等25か所	千円 559

- ② 教育・芸術文化団体を支援することで、県民の豊かな情操と教養のかん養及び文化団体の育成と地域に根ざした自主的な文化活動の振興を図った。

区 分	事 業 内 容	事業費
芸 術 文 化 関 係 団 体 助 成	県民が様々な芸術文化活動に触れる機会を提供するため、芸術文化団体を支援	千円 20,540

(6)芸術文化事業推進 決算額 296,299千円

- ① (公財)群馬交響楽団を支援することにより、県民が本物の芸術文化に触れる機会や子どもたちが生のオーケストラ演奏に触れる機会を提供し、本県文化の向上と普及・振興を図った。

区 分	事 業 内 容	入場者等	事業費
群 馬 交 響 楽 団 支 援	定期・巡回・特別演奏会、音楽教室、楽器セミナー等を実施している群馬交響楽団の運営費等の経費の一部を支援	人 71,321	千円 261,422

- ② アートの力で群馬県を元気にし、県民が誇りと幸福感を感じられる群馬の創造のため、群馬ならではの芸術活動「アーティスティック GUNMA」を推進するための事業を実施した。



区 分	事 業 内 容	事業費
アーティスティック GUNMA 推進	本県ゆかりの画家 山口晃氏の作品を購入・展示するとともに、動画コンテンツの作成や、アート教育に活用	千円 20,539

(7)教育文化事業団運営

決算額

86,227 千円

- ① 文化振興事業等を実施している(公財)群馬県教育文化事業団の運営費を助成した。
- ② 県民の文化芸術への創造的活動を助長し、地域の特色ある多様な文化芸術を充実・発展させることにより、個性豊かで創造性に富むぐんまの文化の振興を図るため、県民芸術祭を同事業団に委託して実施した。

・県民芸術祭概要

区 分	事 業 内 容	入場者数	事業費
県 文 学 賞	短歌、俳句、詩、評論、随筆、児童文学の6部門を選奨(小説は該当なし)	人 40	千円 1,705
県 展	美術展、書道展、写真展を開催(華道展、大茶会は中止)	13,208	2,734
山 崎 種 二 記 念 特 別 賞	県展出品作品から山崎種二記念特別賞(美術、書道、写真部門各1点)を授与		1,140
県民音楽のひろば	県内の各文化施設(7会場)で群馬交響楽団による演奏会を開催	3,674	18,460
群 響 企 画 コ ン サ ー ト	森とオーケストラ(群馬の森)を予定していたが、雨天のため中止		3,229
ぐんま新人演奏会	公開オーディション合格者による演奏会を開催	410	418
グ リ ー ン コ ン サ ー ト	新人演奏会出演者によるクラシック音楽に気軽に触れられる演奏会を開催(新型コロナウイルス感染拡大のため無観客で配信)		127
小 中 学 校 伝 統 芸 能 教 室	津久田人形芝居教室及び日本舞踊教室を開催(人形芝居4座の教室は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止)	368	1,109
伝統歌舞伎の祭典	伝統歌舞伎の公演を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため公演中止		931

区 分	事 業 内 容	入場者数	事業費
子どもワークショップ 「はじめての文化・ 芸術ふれあい教室」 vol. 3	子どもたちを対象に華道、ウクレレ、美術（工芸）、俳句、水墨画、日本舞踊、歌舞伎の楽しさを体験し、鑑賞する機会を提供	人 40	千円 684
メディア芸術推進	マンガ・アニメフェスタ（優れた作品の公募・顕彰・展示とイベント（令和3年度はWebで公開））を開催		3,267
群馬県文化協会連合会 地域文化フェスティバル	群馬県文化協会連合会 10 地域圏のうち、伊勢崎佐波地域圏で地域文化フェスティバルを開催（吾妻は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止）	1,458	212
参 加 団 体 会 場 費 運 営	県民芸術祭参加・協賛事業の一部会場費を補助（10 事業のうち 4 事業が新型コロナウイルス感染症拡大のため中止）	2,958	417
企 画 運 営	運営委員会開催、広報実施及び報告書を作成		618
計		22,156	35,051

(8) 県立美術館・博物館運営

決算額

896,113 千円

県立美術館・博物館において、県民に優れた芸術・文化等の鑑賞の機会を提供するため、各種企画展を開催するとともに、ワークショップや体験学習等の教育普及事業を一層充実させるなど、魅力ある美術館・博物館の運営に取り組んだ。

区 分	事 業 内 容	事業費
近代美術館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観覧者数 31,255 人</li> <li>・教育普及事業参加者 2,411 人</li> <li>・企画展「デミタスカップの愉しみ」ほか全 2 回開催</li> <li>・群馬青年ビエンナーレ 2021 等を実施</li> <li>・「こども+おとな+夏の美術館」「美術館アートまつり」等を開催</li> </ul>	千円 193,173
館林美術館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観覧者数 36,171 人</li> <li>・教育普及事業参加者 3,860 人</li> <li>・企画展「水に浮かぶ島のように」ほか全 5 回開催</li> <li>・学校との連携事業（職場体験、学校訪問、美術館見学）を実施</li> <li>・「館林邑楽地区小学生木版画展」「みんなのアトリエ」等の開催</li> </ul>	175,135

区 分	事 業 内 容	事 業 費
歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観覧者数 43,783 人</li> <li>・教育普及事業参加者 30,049 人</li> <li>・企画展「古墳大国群馬へのあゆみ」ほか全3回開催</li> <li>・学校団体向け学習プログラム、ワークショップ等を実施</li> </ul>	千円 175,771
自然史博物館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観覧者数 129,301 人</li> <li>・教育普及事業参加者 19,137 人</li> <li>・企画展「すき間片隅植物図鑑」ほか全3回開催</li> <li>・サイエンスサタデー（体験学習）を開催</li> <li>・学校との連携事業（館内授業、職場体験）を実施</li> </ul>	288,492
土屋文明記念 文学館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観覧者数 12,126 人</li> <li>・教育普及事業参加者 9,493 人</li> <li>・企画展「怪談－こわい話に花が咲く－」ほか全4回開催</li> <li>・群馬県児童生徒短歌展を開催</li> <li>・講演会、講座等を開催</li> </ul>	63,542

(9)世界遺産継承推進

決算額

78,536千円

世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」を将来の世代に確実に引き継ぐとともに、世界遺産をはじめとする絹遺産の価値を多くの人に伝えることで、地域全体の遺産と絹文化を守り、それらを活用した地域づくり推進につながるよう、各種事業を実施した。

なお、令和3年度の世界遺産の4つの構成遺産への来訪者数は、令和2年度から若干回復したものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、約25万人に留まった。

区 分	事 業 内 容
世界遺産 継承推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界遺産専門委員会開催</li> <li>・世界遺産・ぐんま絹遺産継承基金 企業等からの寄附金を積立て、世界遺産・ぐんま絹遺産の継承に活用（令和3年度積立額 2,727千円）</li> <li>・富岡製糸場西置繭所及び高山社跡の母屋兼蚕室の保存修理に関するユネスコへの報告書作成（英語 A4 21 頁（写真・図面を含む））</li> <li>・遺産影響評価に係るフォトモンタージュの作成（作成枚数：4資産合計 32枚）</li> </ul>
世界遺産 保存整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財保存事業費補助 （4市町 65,815千円 うち令和2年度から令和3年度への繰越分 25,493千円） 4市町が行う世界遺産構成資産の保存修理に対し補助</li> </ul>

区 分	事 業 内 容
日本遺産・ぐん ま絹遺産推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぐんま絹遺産登録（令和3年度：1件 累計 106件）</li> <li>・ぐんま絹遺産保存活用推進（5市町村・2団体 2,465千円） 市町村及び民間団体が行うぐんま絹遺産の普及啓発や保存修理に係る事業に対して補助</li> <li>・シルクカントリー群馬プロジェクト 令和2年度に続き、世界遺産等の調査研究に携わる人材の育成を目的とした研究助成事業「絹ラボ」を関係市町や民間企業とともに実施し、世界遺産や絹産業・絹文化などをテーマにした調査研究に対して、研究助成金を交付（助成件数：13件）</li> <li>・日本遺産推進 来訪者WEBアンケート（回答者数：254人）、普及啓発イベント「日本遺産ウイーク in 桐生 かかあ天下ーぐんまの絹物語ー」（来場者数：約900人）を実施</li> </ul>

(10)世界遺産センター運営 決算額 30,891千円

世界遺産のガイダンス施設として構成4資産の価値や魅力を来館者に分かりやすく紹介するとともに、大学や民間と連携して世界遺産や絹産業、絹文化の研究に取り組み、講演会や研究紀要などを通じて総合的に情報発信した。

・令和3年度観覧者数 18,389人

事 業 内 容	事 業 費
・教育普及事業参加者（館外・学校キャラバン） 21校 1,113名	千円
・セカイトアーカイブ事業 民間からの情報収集（現地調査1件、調査資料数22件）	30,891
・セカイト講演会（世界遺産国際ウェビナーと合同）（1回 オンライン配信）、セカイト研究会（3回）、セカイトミニ講座（3回）、研究紀要の発刊等	
・トピックス展示『荒船風穴と春秋館』ほか 全5回開催	
・アプリ「きぬめぐり」による世界遺産スタンプラリー3回実施 参加者 419人	

4 文化財保護費

(1)文化財保存管理 決算額 53,497千円

文化財の保護と活用を図るため、指定文化財の保存修理や埋蔵文化財の発掘調査に対する事業費補助、パトロールや食害対策調査を実施して保存管理を進めた。

区 分	事 業 内 容	事 業 費
文化財保存事業費補助	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県指定文化財 17件</li> <li>・埋蔵文化財発掘調査等 9件</li> <li>・防災設備保守点検等 7件</li> </ul>	51,269千円

区 分	事 業 内 容	事 業 費
文化財パトロール	文化財保護指導委員 31 人（文化財の傷み具合や管理状況に係る報告：265 件）	1,965 千円
高山蝶パトロール	・嬭恋村：（ミヤマシロチョウほか）：16 人 ・渋川市：（ヒメギフチョウ）：21 人	108
県指定文化財（建造物）管理	・県指定文化財（建造物）の保存・管理・活用状況の実態調査（31 件）	155
計		53,497

(2) 緊急文化財保護対策 決算額 8,439 千円

公共開発事業等が予定されている埋蔵文化財包蔵地について、事前に保護策策定のための試掘調査等を実施するとともに、県内の文化財情報を整備した。

区 分	事 業 内 容	事 業 費
公共開発関連埋蔵文化財緊急調査	公共開発事業等の事業地において埋蔵文化財の試掘調査等を実施（34 件）	6,049 千円
統合型GIS更新	県の統合型GISシステム（マッピングぐんま）において、遺跡等の情報を公開し、随時最新情報に更新	410
新保田中村前遺跡出土遺物の含浸処理	出土遺物（骨角製品）の劣化を防ぎ、保管に支障が生じないように保存処理を実施	1,980
計		8,439

(3) 埋蔵文化財調査センター運営 決算額 43,594 千円

考古資料等の保存と活用を行う埋蔵文化財調査センターを適正に管理運営するとともに、埋蔵文化財についての理解を深めるための普及事業を実施した。

区 分	事 業 内 容	事 業 費
埋蔵文化財調査センター管理運営	施設の維持管理	14,286 千円
埋蔵文化財調査センター展示普及	発掘による出土品、考古資料等の管理及び活用、各種普及啓発事業の実施及び普及啓発嘱託員の設置	25,918
金井遺跡群出土品調査整理	金井東裏遺跡・金井下新田遺跡出土品の調査整理	3,390
計		43,594

(4) 偲ぶ毛の国群馬の魅力発掘・発信 決算額 53,958 千円

国指定文化財の保存管理と活用事業に対する補助、国指定史跡である観音山古墳と上野国分寺跡の管理・運営、「群馬県近世寺社総合調査」の成果等の発信を行った。

区 分	事 業 内 容	事業費
文化財保存 事業費特別枠	・群馬の歴史や文化の特質を表す国指定文化財の保存・活用事業を市町村等が実施するに当たり、20件の事業費の補助を行った。	千円 30,432
観音山古墳 保護管理運営	・史跡地内除草等の維持管理業務委託 ・駐車場賃借 ・解説員4人で見学者への説明に対応した。	6,445
上野国分寺跡 保護管理運営	・史跡地内除草等の維持管理業務委託 ・見学者のためのガイド施設運営。解説員3人で入館者への説明に対応した。 ・社会科見学や総合学習等での学校利用促進のため、史跡上野国分寺跡・史跡観音山古墳の見学案内チラシを作成し、学校及び学校教育関係会議で配布した。	9,300
ぐんまの寺社 魅力発掘・発信	・県内の装飾寺社建築と伝統芸能等に関する総合調査の報告書を刊行して県内外の関係機関に配布するとともに、ホームページに公開した。また、調査結果を踏まえてパンフレットやアプリを更新した。 ・スマホ用アプリ「ぐんま寺社巡り」(年度末の累計DL数3,010件)の保守管理	7,781
計		53,958

## 5 スポーツ振興費

### (1) スポーツ団体運営費助成

決算額 93,456千円

本県のスポーツ振興のための各種事業活動が円滑に行われるよう、スポーツ振興施策を県と一体となって推進している(公財)群馬県スポーツ協会の運営に係る人件費を補助し、体制の整備を行った。

### (2) 生涯スポーツ振興

決算額 6,352千円

県民が身近な場所で継続的にスポーツに親しむことができるよう、市町村や(公財)群馬県スポーツ協会と連携してスポーツ団体の活動の支援を行うとともに、地道な活動により地域のスポーツ振興に功績のあった個人や団体を表彰した。

また、本県が有する優れた自然環境を活かした県境稜線トレイルの活用を促進するとともに、危険箇所の点検や草刈りなどの安全対策を実施した。

### (3) スポーツイベント等の開催・支援

決算額 34,579千円

#### ① ぐんまマラソン

新型コロナウイルス感染症の影響で、各地のフルマラソン大会が相次いで中止となるなか、感染症対策を徹底した安全安心な大会を開催することができた。県内外から多くの参加者を迎えられ、参加者の健康増進を図るとともに、本県の魅力を発信する

機会となった。

種 目	開催年月日	申込人数
フルマラソン	令和3年11月3日	4,552人
10kmマラソン		3,328
合 計		7,880

② 群馬県民スポーツ大会

広く県民の間にスポーツを普及振興するとともに、健康の保持増進、体力の向上及び生活の活性化を図るため、例年県民スポーツ大会を実施している。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、夏季大会と秋季大会の一部競技、駅伝競走大会を中止したものの、秋季大会（16競技）・冬季大会（スケート・スキー）を開催した。

③ オリンピック・パラリンピック等推進

東京2020オリンピック・パラリンピックの気運醸成のため、聖火リレーのトーチ巡回展示を実施した（群馬県の聖火リレーは令和3年3月30日～31日に実施）。

また、伊勢崎市内の商業施設において聖火リレーの写真展を実施した（令和3年10月1日～15日）。

(4) 全日本実業団対抗駅伝競走大会（ニューイヤー駅伝） 決算額 10,176千円

新春の一大スポーツイベントであるニューイヤー駅伝を、主催者の日本実業団陸上競技連合、大会主管の群馬陸上競技協会等の関係機関と連携して実施した。

また、tsulunosの活用（メインスタジオ）や、視聴者プレゼント（県内宿泊券）の実施により、本県のPRを行い、イメージアップを推進した。

(5) プロスポーツ支援 決算額 1,558千円

① プロスポーツチームと企業との連携を促進するため、NETSUGENを活用しイベントを開催した。

・「群馬クレインサンダーズ」をテーマにアイデアソンを実施（令和3年9月14日）。

② 県内の小・中学校等に、プロスポーツチームに所属する選手・コーチ等を講師として派遣し、実技指導や自身の体験・思い等を伝える事業を県内に拠点を置くプロスポーツチームに委託して実施した。

委託先チーム	参加数（実施回数）
ザスパクサツ群馬（サッカー）	101人（5回）
群馬ダイヤモンドペガサス（野球）	中 止
群馬クレインサンダーズ（バスケットボール）	505人（5回）

(6) 競技力向上 決算額 127,338千円

① 本県のスポーツ振興の基本計画である「群馬県スポーツ推進計画」に基づき、競技力の向上を図るために、（公財）群馬県スポーツ協会が実施する競技力向上対策事業に

対し補助を行い、国民体育大会やその他全国大会、国際大会において活躍できる競技者の育成を推進した。特に、新規ジュニア育成事業として、小学3年生向けの運動能力向上プログラム「ぐんまプレキッズ」を開始したところ、定員40名に対し300人を超える応募があった。選考した50人で、全9回の活動（実技・栄養指導等）を実施したほか、トレーニング動画13本を配信した。

・競技力向上対策事業補助

事業内容	事業費
競技団体対策 41 競技	126,871 千円
高体連対策 31	
中体連対策 17	
ジュニア育成 5 事業	
指導者養成資質向上	
強化指定事業 4	
スポーツ医科学活用	
全国大会等選手団支援	

・国民体育大会成績

開催年	回数（大会開催県）	男女総合順位	備考
令和3年	76回冬季（愛知・秋田）	一部中止	本大会が中止となったため総合成績なし
	76回秋季（三重）	中止	
令和4年	77回冬季（栃木・秋田）	（12位）	

- ② スポーツの振興と郷土意識の高揚に資することを目的として、東京2020オリ・パラ、世界選手権等で顕著な成績を残した競技者に対し、群馬県スポーツ賞を贈った。

事業内容	事業費
令和3年度受賞者数	449 千円
○特別栄誉賞 2人	
・東京2020オリンピック フェンシング 見延 和靖	
・東京2020パラリンピック 陸上 唐澤 剣也	
○スポーツ栄誉賞 9	
○スポーツ功労賞 4	
○特別功労賞 2	
○優秀選手賞 68	

- ③ トップアスリートを雇用したい企業と、県内企業に就職したいアスリートのマッチングを図り、競技力の向上と指導者層の確保を図った。

事業内容	事業費
アスリート・ジョブサポートぐんまの設置	16 千円
登録企業数 7 件	
登録選手 2	
マッチング 1	



**(7) 国体等参加推進**

決算額

27,369 千円

## ① 国民体育大会への派遣

本県の代表として国民体育大会やその予選となる関東ブロック大会に参加した監督、選手に対して派遣費を補助し、本県代表選手の活躍を支援した。

区 分	事業内容	派遣人数
関東ブロック大会	第 76 回国体関東ブロック大会 栃木県 令和 3 年 5 月 30 日～12 月 5 日・27 競技	546 人
国民体育大会	第 76 回本大会 三重県 中止 第 77 回冬季大会 栃木県 (スケート) 令和 4 年 1 月 24 日～30 日 秋田県 (スキー) 令和 4 年 2 月 17 日～20 日	— 44 41

## ② 第 83 回国民スポーツ大会開催準備

令和 11 年に本県で開催する国民スポーツ大会に向けて、市町村や競技団体と会場地市町村の選定のための調整を行った。

また、「第 83 回国民スポーツ大会・第 28 回全国障害者スポーツ大会群馬県準備委員会」において総務企画専門委員会及び広報・県民運動専門委員会を開催し、会場地市町村の選定や広報基本方針等について審議した。

**(8) 大会基金積立**

決算額

502,342 千円

第 83 回国民スポーツ大会・第 28 回全国障害者スポーツ大会の財源に充てるため、基金の積立てを行った（令和 3 年度末基金現在高 1,002,342 千円）。

**(9) スポーツ施設の管理・整備**

決算額

416,542 千円

## ① スポーツ振興課所管の次の施設について、県民が安全かつ良好に使用できるよう、指定管理者による管理運営を行った。

区 分	指定管理者	管理費用	利用人数	使用料収入
ALSOK ぐんま総合スポーツセンター	(公財)群馬県スポーツ協会	233,343 千円	432,775 人	53,839 千円
総合スポーツセンター伊香保リンク	(公財)群馬県スポーツ協会	145,767	27,854	14,674
ライフル射撃場	群馬県ライフル射撃協会	2,850	951	322

## ② スポーツ振興課所管施設において、経年劣化に伴う補修・修繕が必要となった施設・設備等について、その優先度に応じて計画的に修繕等を行った。

区 分	事業内容	事業費
工 事 費	ALSOK ぐんまアリーナデジタルサイネージ設置工事ほか	20,427 千円
備 品 費	伊香保リンクフォークリフト	1,705
計		22,132

